

|                               |  |
|-------------------------------|--|
| <b>1 学校教育目標</b>               | <b>2 本年度の重点目標</b>  |
| ふるさと鳥栖に誇りをもち、心身ともに調和のとれた生徒の育成 | 「認め合い、協力して高め合う生徒集団の育成」<br>① 確かな学力を育成する。<br>② 心の教育を推進する。<br>③ 健康・安全及び防災教育を推進する。<br>④ 小中一貫教育を推進する。<br>⑤ 開かれた学校づくりを推進する。<br>⑥ 働き方改革を推進する。 |

- A : ほぼ達成できた  
 B : 概ね達成できた  
 C : やや不十分である  
 D : 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

| 3 目標・評価                     |                    |  |   |  |  |         |     |   |   |   |
|-----------------------------|--------------------|--|---|--|--|---------|-----|---|---|---|
| ① 確かな学力を育成する。               |                    |  |   |  |  |         |     |   |   |   |
| 領域                          | 評価項目               | 評価の観点<br>(具体的評価項目)                     | 具体的目標   | 具体的方策  | 担当分<br>掌(部)  | 担当者     | 達成度 | 成果と課題<br>(左記の理由)  | 具体的な改善策・向上策   |   |
| 教育活動                        | ●学力向上              | 個に応じた指導、分ける授業に向けた指導方法の調査と改善            | ・12月に行われる佐賀県小中学校学習状況調査において、1年生については国語及び数学については各領域で4月の結果を上回る。他の3教科については、佐賀県の平均を上回る。2、3年生については、全ての領域において「おおむね達成」を上回る。 | ・各種テストの結果を分析することにより、不十分な領域については改善を行う。<br>・「自学ノート」や課題への効果的な活用方法を提示し、より効果的な家庭学習の定着を図る。   | 学力向上委員会  | 主幹      | A   | ・12月に行われる佐賀県小中学校学習状況調査において、1年生については国語について各領域で例年より4月から12月への成績推移が向上した。他の3教科については、佐賀県の平均を上回ることができた。2、3年生については、ほとんどの領域において「おおむね達成」を上回ることができた。 | ・各種テストの結果の効果的な分析・活用を引き続き行う。<br>・「自学ノート」や教科ごとの宿題への取り組み方を工夫し、より効果的な家庭学習の定着を図る。  |   |
|                             |                    | 自己決定・自己存在感・共感的人間関係を生かした授業作りの実践         | ・校内研究の柱を学力向上とし、各教科において、全ての生徒に出番を与える授業づくりをめざして研究授業を行い、友達との意見交流や発表ができたという生徒の割合を80%以上にする。                              | ・授業を分析し自分の授業に生かすための授業研究を行い、生徒が意欲的になる授業を工夫していく。<br>・「学力向上プラン」を立て、より具体的な手立てを研究、実践する。   | 学力向上委員会  | 主幹      | B   | ・校内研究で授業改善に取り組み、友達との意見交流や発表ができたという生徒の割合を全学年で向上させることができた。今後も80%を目指して取り組む必要がある。   | ・全ての生徒に出番を与える授業づくりを視点に、授業研究を行い、生徒が意欲的になる授業を工夫していく。<br>・「学力向上プラン」を立て、より具体的な手立てを研究、実践する。  |   |
|                             |                    | 学習環境のUD化推進                             | ・教室環境や見通しをもてる授業づくりを通して、様々な角度からのUDづくりを実施し、個に応じた授業がなされていると感じた生徒の割合を75%以上にする。  | ・教室前面において、視覚的な刺激を配慮した掲示を行う。<br>・「めあて」「授業の流れ」「振り返り」を視覚化し、見通しをもてる授業を実施する。  | 学力向上委員会  | 主幹      | B   | ・個に応じた授業がなされていると感じた保護者の割合は、90%だった。今後は、生徒の割合75%を目指していく。  | ・引き続き、教室前面において、視覚的な刺激を配慮した掲示を行う。<br>・「めあて」「授業の流れ」「振り返り」を視覚化し、見通しをもてる授業を実施する。  |   |
| ② 心の教育を推進する。                |                    |  |   |  |  |         |     |   |   |   |
| 領域                          | 評価項目               | 評価の観点<br>(具体的評価項目)                     | 具体的目標   | 具体的方策  | 担当分<br>掌(部)  | 担当者     | 達成度 | 成果と課題<br>(左記の理由)  | 具体的な改善策・向上策   |   |
| 教育活動                        | ●心の教育              | 自己肯定感の向上                               | ・各教科等・領域を通して、全ての生徒が称賛される機会をもてるよう場を設定する。   | ・Q-Uテストを実施し、生徒の実態を把握する。<br>・個々の生徒を賞賛する記事や、友達の良いところを学年・学級通信や掲示物で紹介する。   | 道徳教育   | 堤       | B   | ・QUテストの結果をもとに職員で生徒の実態の把握や支援を考えることができた。<br>・多くの生徒に活躍できる場や役割をもたせることができた。また、行事の後に「いいところ探偵団」など友達のいいところを認めあうことができた。                            | ・生徒の実態把握や支援、その後の経過など全職員で共有しながら、生徒が輝く場や認め合い活動できる場面を作りたい。<br>・心の成長につながる道徳教育を推進を図りたい。  |   |
|                             |                    | いじめの未然防止と早期発見のための取組の徹底                 | ・教育相談アンケートや生活状況調査を行い、いじめ等生徒の問題の早期発見に努める。<br>・本校の学校いじめ基本方針を、いじめの認知・認知に対する対応マニュアルも含めて充実させ、対応の迅速化を行う。                  | ・いじめ未然防止のためいじめの早期発見のため、毎月10日の「鳥栖市いじめと命を考える日」に講話及びアンケートを実施する。また、学期に1回は、持ち帰りのアンケートとし、じっくり考えて書く機会を作る。<br>・いじめの認知・認知に対する教員のハードルを下げるための対応マニュアルを作成することで、早期発見ができる体制を作る。 | 生徒指導   | 佐野      | B   | ・アンケートを毎月1回行うことで、早期発見、対応を行うことができた。<br>・保護者、生徒からの情報提供により早期対応もできた。<br>・生徒指導委員会、職員連絡会を通して、情報共有、対応について組織として対応できた。                             | ・定期的なアンケートによる情報収集の継続と生徒観察から変化を見抜くスキルの向上を図りたい。   |   |
|                             | ○人権教育              | 人権・同和教育の充実                             | ・SNSにおけるトラブルへの危機管理意識の向上   | ・SNSに関する生徒アンケートや、集会を通して、生徒自身の情報モラルや危機管理意識を高める。   | ・学期に1回、SNSに関するアンケートを行う。<br>・生徒を対象とした「スマホ・ケータイ安全教室」等のSNSにおけるトラブル予防のための講演会を実施する。                                   | 生徒指導    | 佐野  | B   | ・12月に1、2年生の全クラスで共通した題材を用いてSNSにおけるトラブル予防のための授業を展開した。また、生徒、保護者に向けてリーフレットを配付した。  | ・定期的なアンケートによる実態把握、啓発活動を地道に行うことで予防に努める。<br>・PTAと連携した活動を実施することで未然防止につなげた。   |
|                             |                    |  | ・2年間の職員研修の充実とそれを生かした生徒の人権意識向上のために指導を行う。<br>・人権・同和教育に関する全校集会や学年集会を年3回以上開催する。   | ・各学年の人権・同和教育を中心に、年間指導計画に基づきながら実践を積み重ねる。<br>・全校生徒を対象とした人権・同和教育に関する人権週間や人権集会を開催し、他人の良さに目を向けたり、言葉の大切さについて考えさせたりする機会をもつ。   | 人権・同和教育  | 末永      | B   | ・年間指導計画に沿って、各学年の授業で人権・同和教育を行うことができた。<br>・人権週間では、人権放送やいじめ防止標語を作成し、生徒の人権意識を高めることができた。   | ・職員の人権意識を高めるために、外部講師を招聘するなど、職員研修の充実をはかる。<br>・人権学習の指導時期や道徳の授業との連携をはかるために、年間計画の見直しを行う。  |   |
|                             |                    | ○人間関係                                  | 学級活動の充実   | ・学期に1回はソーシャルスキルに関わる取組を学年または学級で行う。  | ・学級活動の中で、相手に嫌な思いをさせないで自分の意見を主張したり、相手の申し出を断ったりするトレーニングの機会をもつ。<br>・「出番・役割・承認」の場を意図的に設け、共感的な人間関係を意識した学級経営を行う。       | 教育相談    | 山口  | B   | ・各学年でグループエンカウンターなどを実施できた。<br>・QU検査を活用した学年での話し合いを更に深めていく必要がある。   | ・クラスの実態に応じて、ストレスマネジメントなどSCとの授業を組み込んでいきたい。<br>・教育相談担当がソーシャルスキル授業一覧を作成し、全職員に紹介するなど努めたい。                           |
|                             |                    | ○生徒指導                                  | 不登校及び不登校傾向の生徒に対する指導の充実  | ・一人一人の状況に応じた対応を行い、複数で対応する仕組みを構築することにより、不登校生徒の減少を図る。<br>・新たな不登校生徒を出さないための未然防止に努める。  | ・中1ギャップを最小限にとどめるように小学校との連絡を密にし、相談体制をきめ細やかにする。<br>・教室には入れない生徒や欠席の続く生徒には、担任、加配教員、スクールカウンセラー等でケース会議を開き、チームを組んで対応する。 | 生徒指導    | 山口  | A   | ・一人一人の状況に応じた対応を行い、複数で対応する仕組みを構築することにより、不登校生徒を減少させることができた。今後も新たな不登校生徒を出さないための未然防止に努める。   | ・毎週、気になる生徒や不登校(傾向)生徒について、スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーや関係職員と連絡会を実施する。またチームで支援していくために、ケース会議を行っている。<br>・相談室がもう一部屋あったほうがよい。 |
| ③ 健康・安全及び防災教育を推進する。         |                    |  |   |  |  |         |     |   |   |   |
| 領域                          | 評価項目               | 評価の観点<br>(具体的評価項目)                     | 具体的目標   | 具体的方策  | 担当分<br>掌(部)  | 担当者     | 達成度 | 成果と課題<br>(左記の理由)  | 具体的な改善策・向上策   |   |
| 教育活動                        | ●健康・体づくり           | 望ましい生活習慣の形成                            | ・早寝早起き習慣の確立と朝食の摂取率95%達成を目指す。<br>・あいさつや返事が気持ちよくできる生徒を増やす。  | ・養護教諭や生徒会と連携して朝食や睡眠などの生活習慣について指導していく。<br>・担任や部活動の顧問と連携して、あいさつ運動を継続し、できない生徒へは根気強く指導する。  | 給食・食育担当  | 仁田      | B   | ・朝食の摂取率は86.6%で目標は達成できなかった。養護教諭と連携し、健康な体作りには規則正しい食事が大切であることを学習させた。<br>・あいさつ運動をクラス毎に行い、あいさつができていない生徒が増えつつある。                                | ・朝食摂取率を高めるために、朝食の大切さをさまざまな機会を捉えて生徒に伝え、理解させて改善に取り組む。<br>・これからは担任と共に養護教諭とも連携し、全体の保健教育・保健指導を推進する。<br>・礼法指導を継続し、自発的に挨拶ができる生徒を増やしたい。 |   |
|                             |                    | ○危機管理体制、学校防災体制の整備                      | 危機管理マニュアル、学校防災計画の作成・実施  | ・危機管理について、各学期に最低2回は会議や連絡会の場で具体的事例を取り上げ、職員の意識の高揚を図る。<br>・学校の状況に合わせた防災計画を作成し、生徒の安全確保についての意識を高める。   | ・危機管理について、会議や連絡会の場で具体的事例を取り上げる。また、個別の指導も行う。<br>・安全教育担当を中心に、避難訓練や防災教室を年2回以上、より現実に近い状況で行えるように工夫する。                 | 安全・防災担当 | 牛島  | B   | ・工事箇所や安全対策等について随時連絡し、危機管理の予防的措置を行った。<br>・避難訓練2回、防災教室2回、交通安全教室1回を行い、生徒の安全確保についての意識を高めた。  | ・今年は、特に台風や大雨、地震、危険な暑さ等の自然災害が連続して発生したので、危機管理マネジメントによって、生徒の安全・安心が守られるように、継続的指導が必要である。                             |
| ④ 小中一貫教育を推進する。              |                    |  |   |  |  |         |     |   |   |   |
| 領域                          | 評価項目               | 評価の観点<br>(具体的評価項目)                     | 具体的目標   | 具体的方策  | 担当分<br>掌(部)  | 担当者     | 達成度 | 成果と課題<br>(左記の理由)  | 具体的な改善策   |   |
| 学校運営                        | ○小中一貫教育            | 鳥栖小学校・鳥栖北小学校との連携                       | ・教科「日本語」を柱とした小学校との連携を深める。   | ・定期的な会議を開催し、生徒と児童間の交流、教師間の交流の場を設定していく。<br>・三校の教師全員の研修会を開催する。   | 学力向上委員会  | 主幹      | A   | ・生徒・保護者への意識調査で、教科「日本語」を柱とした小学校との連携を深めていると感じている生徒は、76%、保護者は、92%だった。  | ・引き続き、定期的な会議を開催し、生徒と児童間の交流、教師間の交流の場を設定していく。<br>・三校の教師全員の研修会を開催する。   |   |
| ⑤ 開かれた学校づくりを推進する。           |                    |  |   |  |  |         |     |   |   |   |
| 領域                          | 評価項目               | 評価の観点<br>(具体的評価項目)                     | 具体的目標   | 具体的方策  | 担当分<br>掌(部)  | 担当者     | 達成度 | 成果と課題<br>(左記の理由)  | 具体的な改善策・向上策   |   |
| 学校運営                        | ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | 校務等の効率化の促進                             | ・各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進するとともに、教職員の時間外勤務について1か月当たり前年度比10%削減する。   | ・業務改善に係る教職員の意識改革を図る。<br>・公務サーバー上で各分掌が情報共有を行いやすいように、フォルダ構成を工夫する。<br>・各教職員の勤務時間を確実に把握するとともに、特定の教職員に業務が集中しないようマネジメントを行う。  | 管理部  | 教頭      | B   | 概ね20時を目途に学校を施設することができた。業務記録票の改善を基に、時間外勤務の可視化ができた。業務のマネジメントについては、仕事が集中している職員が偏り、未だ課題が残る現状である。  | 定時退勤日の遂行について、各自の業務マネジメント徹底と呼びかけを行う。   |   |
| 学校運営                        | ○開かれた学校づくり         | ・学校運営の状況に関する積極的な情報提供の推進                | ・フリー授業参観を充実させる。<br>・外部の意見を聞く機会を増やす。   | ・フリー参観を年に2回実施し、参加者を増やす。<br>・学校評価アンケートや参観日のアンケートを実施する。  | 管理部  | 教頭      | A   | 授業参観は時間設定をし「選手推戴式」や「生徒会長選挙演説」の行事と絡めた結果、参観者の増加につながった。保護者からも好評であった。   | 来年度も今年度と同様の組み合わせで実施する。  |   |
| 学校運営                        | ○情報発信              | ホームページの充実                              | ・ホームページの更新をこまめに行い、地域、保護者が必要な情報提供を行う。<br>・見たい情報に簡単にたどり着けるようなホームページ上の設計を行う。   | ・学校からのお知らせや行事予定等を1週間に1回は更新する。<br>・すべてのページが先頭ページから3〜4クリック以内にとどまり着けるようページの設計を工夫する。   | 管理部  | 教頭      | B   | HPの更新は月1程度に留まっていたが、まちcomiによる情報発信は積極的に行うことができた。  | 次年度はまちcomiとホームページの使い分けを適宜行う。  |   |
| 本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入) |                    |  |   |  |  |         |     |   |   |   |
| 領域                          | 評価項目               | 評価の観点<br>(具体的評価項目)                     | 具体的目標   | 具体的方策  | 担当分<br>掌(部)  | 担当者     | 達成度 | 成果と課題<br>(左記の理由)  | 具体的な改善策・向上策   |   |
| 学校運営                        | ○学校経営方針            | 教育目標「ふるさと鳥栖に誇りをもち、心身ともに調和のとれた生徒の育成」の周知 | ・生徒への周知率100%、保護者への周知率80%以上をめざす。   | ・学校だよりや全校集会、PTA総会等で、これまで以上に丁寧な説明を行い、教育目標を理解してもらい、周知率を上げる。<br>・教職員から学級だよりや学級懇談会でも知らせしていく。   | 管理部  | 教務      | B   | ・周知率の達成は今一歩であった。特に生徒においては学年によって差が大きかった。意識づけの場が不足していると思われる。  | ・教職員が一つ一つの教育活動が「学校教育目標を実現するための戦略であること」を意識し、PDCAサイクルを回す。大きな行事では教育目標にどれだけ近づいたかという視点で総括を行い、生徒に伝えていく。                               |   |

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目